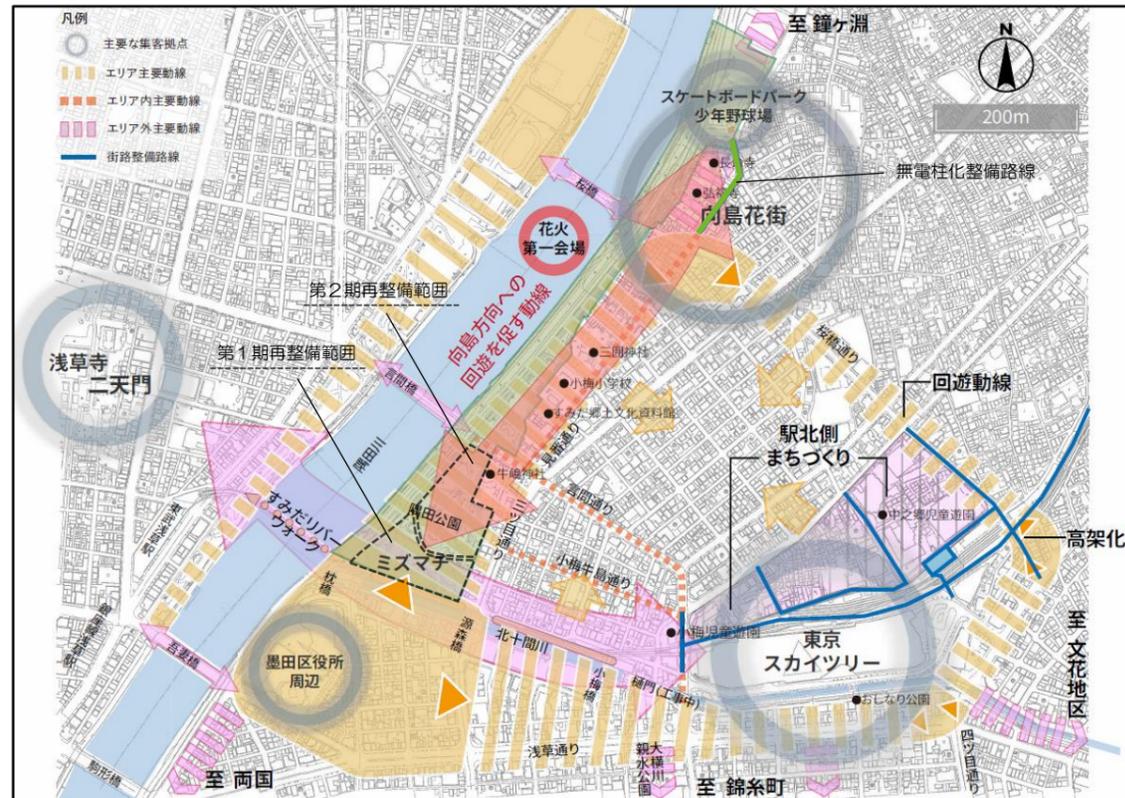


1 趣旨

隅田公園は、北十間川・隅田公園観光回遊路整備事業の一環として、令和元年度に日本庭園以南の第1期再整備が完了し、令和6年度に日本庭園から言問橋までの第2期再整備が完了したところである。

第1期・第2期再整備によって創出された浅草・東京スカイツリー間の人の流れや賑わいを、今後の再整備により魅力的な南北動線を創出することで、言問橋以北へ波及させるとともに、隅田公園を核として地域への回遊を促し、まちの魅力を向上するため、隅田公園の再整備構想を策定し、今後の再整備の方向性を確定する。



隅田公園を核とした回遊イメージ

2 背景

当該地は、江戸時代には水戸徳川家の下屋敷（庭園）があり、墨堤に桜が植えられてからは、庶民の遊覧地として当時から親しまれるなど、歴史・文化ある土地である。

明治維新後は水戸徳川家の小梅邸として、会合や花宴等のもてなしの場となったが、大正12年の関東大震災によって建物は焼失してしまった。その後、帝都復興事業にて、3列の桜並木を持つ公園道路（プールバール）や日本庭園（園池）がある震災復興公園として整備され、日本初のリバーサイドパークとして昭和6年に開園した。

都から区に移管後は、昭和52、53年度に墨田区政30周年記念事業として隅田公園全体の大改修を行い、長きに渡って地域住民の方に親しまれてきたが、施設の老朽化や、東京スカイツリー開業などの周辺環境の変化、公園に対するニーズの多様化など、時勢の変化に対応するために、第1期・第2期再整備を行った。

令和6年度には、今後の再整備の方向性を示す隅田公園の再整備構想を策定するため、地域の方や公園を利用される方、こどもたちなどを対象とした意向調査を行い、隅田公園の改善点として「こどもが遊べる施設の充実」「誰もがくつろげる施設の充実」など、より魅力的な公園にするための意見が得られた。



震災復興当時のプールバール

3 隅田公園の課題

隅田公園における今後の再整備の方向性については、時勢の変化に基づく社会要請や、歴史的空間性の継承を踏まえた検討が必要である。

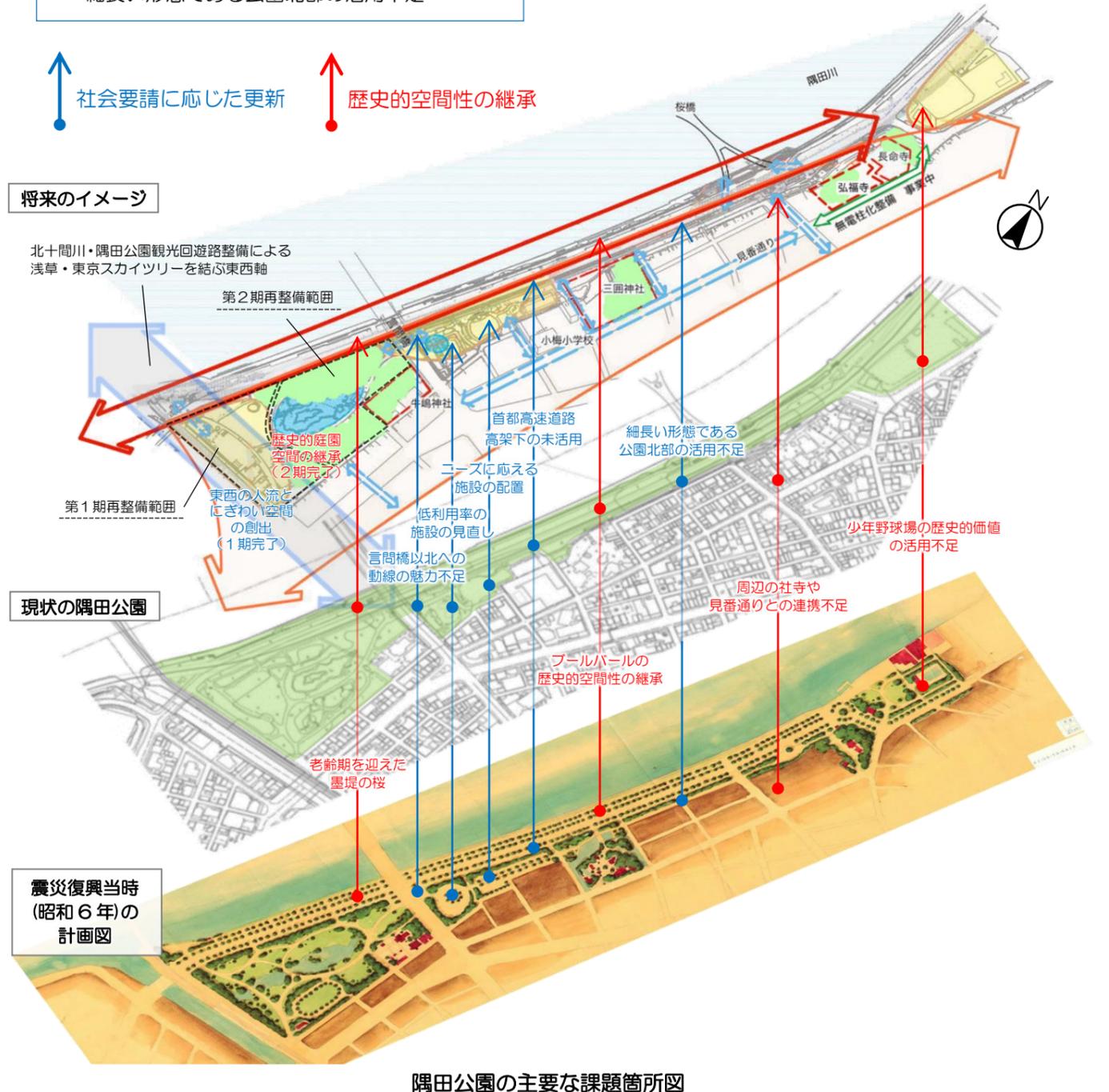
今後の再整備において解決を図るべき主要な課題は、次のとおりである。

● 社会要請に応じた更新

- 利用率が低減した施設の見直し
- 言問橋以北への動線の魅力不足
- 公園利用者の多様なニーズに応える施設の配置
- 首都高速道路高架下の空間の未活用
- 細長い形態である公園北部の活用不足

● 歴史的空間性の継承

- プールバールの歴史的空間性の継承
- 老齢期を迎えた墨堤の桜の保全・更新
- 周辺の社寺や見番通りとの歴史的空間性の連携不足
- 日本初の少年野球場という歴史的価値の活用不足



隅田公園の主要な課題箇所図

将来のイメージ

北十間川・隅田公園観光回遊路整備による浅草・東京スカイツリーを結ぶ東西軸

現状の隅田公園

震災復興当時(昭和6年)の計画図

《コンセプト》 隅田川沿いの並木のある広い道路「ブルバール」の継承と、公園とまちの一体的な空間「プロムナード」の創出

■ 「ブルバール」(震災復興当時の並木のある広い道路)の継承に向けた方向性

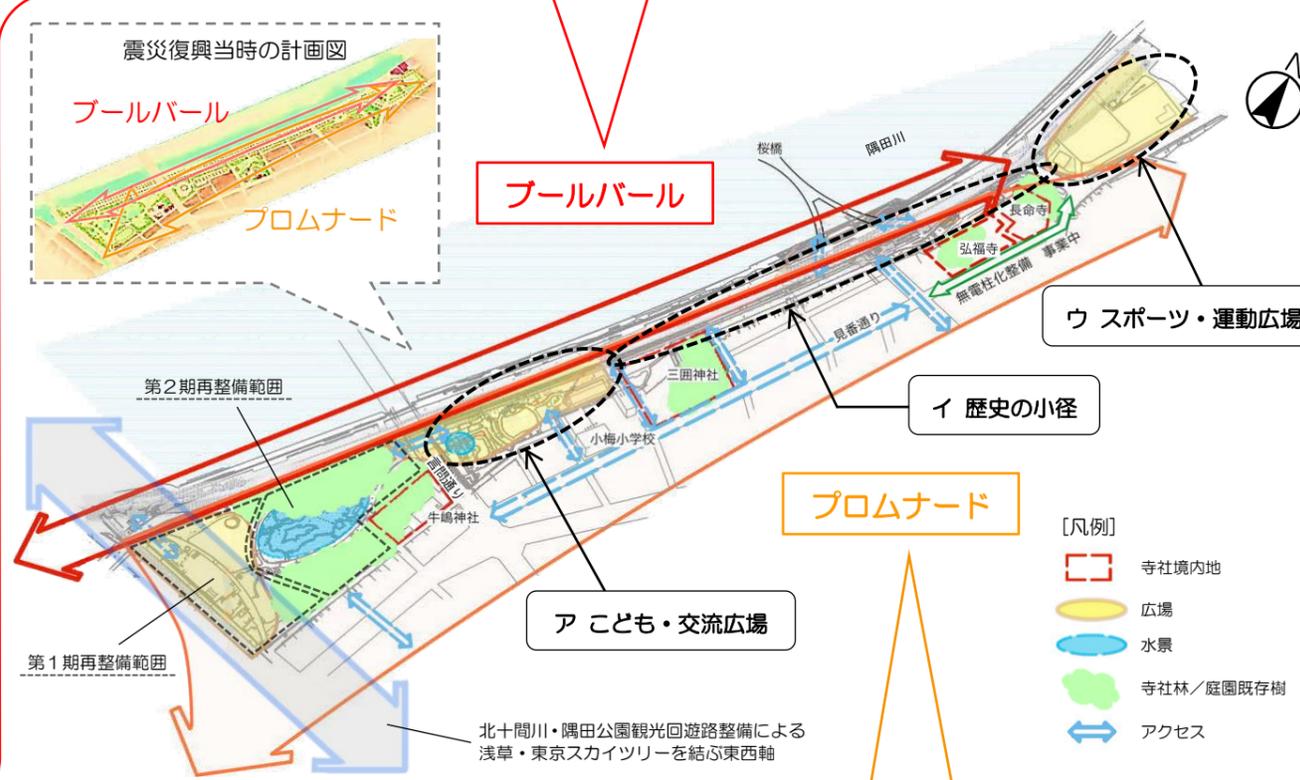
＜歴史ある墨堤の桜の継承＞

- 高齢期を迎え、病気や虫害に侵されやすい状況となっている墨堤の桜について、保全活動による長寿命化を継続するとともに、計画的な更新を行い、歴史や風景を次の世代に継承していく。
- 更新に当たっては、保全活動を行っている地域住民や専門家(樹木医等)と共に更新計画を立案する。



＜全天候型公園としての活用＞

- 首都高速道路を、天候の影響から公園利用者を守る大きな傘と考え、未活用の高架下を、雨や夏の暑さでも利用できる全天候型公園として活用する。
- 高架下には、休憩施設を配置した憩いの空間、イベントの開催など多目的に利用できる空間を整備する。



ウ スポーツ・運動広場

- 日本で最初の少年野球場及びその周辺をボールパークとして整備するなど、歴史的価値を踏まえた施設としての活用を図る。
- 隣接する銅像堀公園のスケートボードパークと一体に、様々な運動機能とアクティビティを集約するなど、回遊の目的となるような空間の創出を図る。

イ 歴史の小径

- 周辺の社寺や見番通りなど、まちとのデザインの統一化を図り、史跡やまちの歴史、古き良き文化が感じられる、回遊して楽しめる空間に整備する。
- 細長い園路と緑地帯を再編し、隣接する区道と一体的に整備するなど、開放的でウォーカブルな空間を創出する。

■ 「プロムナード」(公園とまちの一体的な空間)の創出に向けた、3つのエリアの方向性

ア 子ども・交流広場

- 震災復興当時は児童用コーナーであり、現在も隅田公園で唯一、遊具があるエリアであることから、こども向け施設を中心とした、多世代が交流できる空間とする。
- 利用率が低減している魚つり場は閉鎖し、機能を大横川親水公園に集約する。跡地には遊具広場や水遊び施設といった、公園利用者のニーズに応じた空間に再整備する。
- 言問橋下のトンネルを活用するなど、南北の結節点を強化し、芝生や緑陰、休憩施設や地域の催しができる広場を設置するなど、誰もが憩える空間を創出する。

